

ネタバレ注意!!

以下に記載するのは、『炎の遺産』アドヴェンチャー・パスのバックグラウンドおよび概要となります。貴方がこのキャンペーンを遊ぼうとしている場合、以下を読まないようご注意ください。本項は、今後の冒険の内容を完全に説明してしまっているものです。

血の中の炎

数百年の昔、イフリートの公子ジャヴールは地獄の元素の女王イメリの気を引こうとして彼女に求婚した。ジャヴールが軍勢ひとつ持たないただの公子にすぎず、ジンニーの情弱な身体しか持っていないということを見て取った彼女は、考えられもしないといってその申し出をはねつけた。恥にまみれ怒り狂う一方で、ジャヴールはこうなったらなんとしても女王イメリの心を勝ち得ようとした。つまり軍勢を集め、彼女の恋人としてふさわしい怪物になろうと決心したのである。

ジャヴールは物質界まで行き、その冷酷なる女主人の気を引こうとした。が、物質界に現れた途端に、エゼール・ハッゼバウムという名の魔法神官によって捕らえられ、幽閉されてしまった。無理やりジャヴールに手助けをさせて、この人間のミスティックとその奴隷や従者の魂からなる彼の軍隊は、“炎の血潮”ゾターニの亡骸を求めて北の砂漠をしらみつぶしに探し回った。このゾターニは、ロヴァググのおそろべき墮とし子のうちの1体である。伝説の語る場所に拠れば、“炎の血潮”の墓を見出したものは、この大いなる破滅の獣の姿に転生することができるというのである。転生には一千回の“願い”が必要だったが、ジャヴールのような偉大なジンニーを奴隷としている以上、これには一年も要さない勘定である。

この古代の魔法神官がゾターニの終の棲家を見つける前に、彼がジャヴールに及ぼしていた制御がなんの弾みか狂った。その結果起きた戦闘でエゼールはからくも生き延び、彼の計画も軍隊も捨て去って火の次元界に逃げ延びた。ジャヴールは彼の新たな軍隊を率いると、自分の勝利を祝うために北の砂漠を横断し、またさいぜんまでの主人が行っていた“炎の血潮”の亡骸の探索も続けた。ゾターニの特徴を受け継ぐことができたなら、イメリが自分に夢中になるであろうことは確実だったからである。エゼールの研究を踏み台にして、ジャヴールは“炎の血潮”の大いなる亡骸が、真鍮山脈の地下深くの大洞窟に眠るのを探し当てた。

“炎の血潮”の力を自分の身体に受け入れるための変成を行なうには、ジャヴールは一千の願いを費やさねばならない。これは彼ひとりでは出来ない相談だった。

ジャヴール自身の願いを他の定命の者たちが口にするようにせねばならない　そう、ジャヴールは知っていた。そこで彼はロヴァググの神殿の支配者となり、そこは“獣の家”として知られるようになった。季節がひとつ過ぎ去る間に、壊れた城がいくつも、真

鋤山脈の頂に出現し、人々は伝説のクリーチャーへと変成を遂げ、そうならなかったものたちは薄い空気の中から現れたコインの海で泳ぐこととなった。不死性を獲得したのものもいれば、もう二度と会えないはずの恋人と再会したものもいた。あるいは年老いた恋人たちが奇跡的に若返ったりした。そのたびごとに、ジャヴールの願いも祈りの言葉の中に紛れ込み、宿命を汚し、運命を改変していったのである。

“ 願いの魔法 ” を賢く用いるジンニーたちは、運命の波立ちを感じ取り、運命が永遠の交響楽を織り成すのを聞き取る術を学ぶ。その訓練をうけた耳には、ジャヴールが現実を捻じ曲げる様は、オーケストラがすさまじい勢いで調子はずれの騒音を立てるように響いた。この不協和音はジンの姫ネフェシュティの注意をひきつけた。彼女自身も願いの魔法の使い手であり、それゆえに彼女はジャヴールに対抗することが可能なのだった。ネフェシュティは5人の強力な地上のジンニーを呼び寄せ、“ 五つの風の寺院守護者 ” と名づけた。ネフェシュティによって祈りの言葉に古い願いが織り込まれていたため、彼女の寺院守護者たちは彼女の恩寵を受け続ける限り、永遠に生き続けることになっていた。

しかし、不死のものであってさえ、完全に異質かつ荘厳な、自己生成し、かつそれぞれが想像力の限りを尽くしたような運命の贈り物を持っている超人たちの軍隊を止めることはできなかった。戦闘ごとにネフェシュティの軍勢は数を減らして行き、とうとう “ 五つの風の寺院守護者 ” たちはやぶれかぶれの作戦に打って出た。アンドラーシという名の、ネフェシュティの恋人でもある人間のウィザードが、“ カキショーンの巻物 ” として知られるアーティファクトを用いて、忘れ去られたデミプレーンにジャヴールとその軍勢を罠にかけて閉じ込めたのである。そのときに彼自身も犠牲となって死んだ。

ネフェシュティがその巻物　そしてその中に閉じ込められたもの　を戦場から取り戻そうとする前に、この古代の羊皮紙はジャヴールの最も下等な召使の一人である、シラクという名の臆病なノールのクレリックの手に落ちてしまった。この地図を大事にしまっておきさえすれば、いつの日かこの手で　それが無理なら自分のご先祖様の誰かがイフリースの公子を開放し、莫大な報酬を得ることが出来るとこのノールは理解していた。ネフェシュティがやってきたときには、シラクはとっくの昔に “ カキショーンの巻物 ” を隠すため、“ 獣の家 ” の地下深くに逃げ込んだ後だった。以来、“ 五つの風の寺院守護者 ” たちは旧敵の帰還を示すほんのわずかな兆しも見逃すまいと、時を分かつため監視を続けているのである。

腐肉王の咆哮

By エリック・モナ

Pathfinder #19、1-4レベル

PCたちは女豪商アラマー・ロヴェシュキの一行に加わる。彼女はケルマレインの廃村を、そこを占拠しているノールどもから取り返すという高貴な使命を請けている。この冒険の間にPCたちは、ノールどもが墮落したジャーン　“ 五つの風の寺院守護者 ” として

知られる古代の組織の一員が倒されてしまったものに率いられていることを知る。仲間の一人が気づかぬうちに、この謎めいた組織で倒された二人目の者の宿主になってしまふことで、PCたちは、後に“炎の遺産”事件として知られることとなる一連の出来事に巻き込まれてゆく。

獣の家

By ティム・ヒッチコック

Pathfinder #20、5-6レベル

ザーフイドと名乗る謎めいた旅人（実はこれは、墮落した“五つの風の寺院守護者”の変装した姿である）の忠告を受け、PCたちは蒼白山の斜面を四時の母子、“獣の家”で“腐肉の王”自身と対決する。しかし遺跡のはるか地下で。PCたちは、この崩れた寺院にいるのはノールの支配者以上の何ものかであると知るのである。“獣の家”のもっとも深い階層には、大昔にジャヴールを幽閉したアーティファクトである、“カキショーンの巻物”がある。冷酷なるザーフイドが自分の暗い目的のために件の巻物を手に入れてしまふ前に、PCたちはそれを確保することができるだろうか？

ジャッカルの値

By ダリン・ドレイダー

Pathfinder #21、7-8レベル

PCたちは“カキショーンの巻物”を手に入れた。が、この強力なアーティファクトの制御方法を捜し求めているのは彼らだけではない。この巻物の謎を明らかにしうるだけの知識と物資を有する学者を探すため（そして、恐らくこれはこの巻物の中に収められている素晴らしい宝物の買い手を捜すということにもなる）、PCたちはにぎやかなカタベシュの街に行く。が、そこで得るのは街一番の悪名を誇る犯罪者の一人、ジャッカル師との確執だけだ。ジャッカル師の密偵が巻物を盗み、PCたちの味方である賢者ライハーンを誘拐するに至り、PCたちは連中が秘密を解き明かしてしまわぬうちに犯人どもを追い詰めねばならない破目に陥る。

永遠の終わり

By ジェyson・ネルソン

Pathfinder #22、9-10レベル

“カキショーンの巻物”の秘密はついに解き明かされた！しかしPCたちがその地図に記された世界へのポータルをあげようとするとき、予期せぬ何事かが起きる。楽園への優しき門が開く代わりに、魔法の暴力的な爆発がPCたちをカキショーンへと送り込み、この謎めいた領界の離れ小島に放り出す。そして同時に、ジャヴールとその軍勢のほとんどを、カタベシュの街へと送り込むのだ！PCたちは地図の中のデミプレーンからの脱出経

路を見つけ出さねばならない が、その前に、ここに残されたジャヴールの寄せ集めの軍勢の怒りに耐え、一方で“永遠の終わり”の悪意に満ちた変幻自在の守護者を相手取って生き延びることができるだろうか？

有り得ざる瞳

By グレグ・A・ヴォーガン

Pathfinder #23、11-12レベル

PCたちはついにカキシオンを脱出する が、出た先は謎めいたダンジョンである。じきにPCたちは、自分たちが伝説の黄銅城の中にあるジャヴール自身の館の中に閉じ込められているのだと知る。そうしてまた、ジャヴールが大昔の自分の仕事を達成して新たな“炎の血潮”となろうとしているのだ、と！ 脱出手段を探す間に、PCたちはジャヴールの計画の大部分を知り、彼の館を吹き飛ばせば彼の計画は大いに弱体化するのだと知り、ついにはイフリースの古い敵にして主人、エゼール・ハッゼバウムと出会う。彼もまたここにとらわれ、ジャヴールへの復讐方法を探していたのである。自由への鍵は、大昔に黄銅城のスルタンのもとから盗まれた、“有り得ざる瞳”の銘を持つ魔法の鏡の中にある。これはジャヴールの館のどこかに隠されているのだ。ところがついにPCたちが“有り得ざる瞳”を奪い返したとたん、今度は件のスルタン自身が宝物を取り返そうと、部下のドラゴンを送り込んでくるのである！

最後の願い

By ロブ・マクレアリー

Pathfinder #24、13-14レベル

カタベシュに戻ってきたPCたちは、ジャヴールが蒼白山へ行ってケルマレインの村を征服しようとしていると知る。再び村を解放すると（ただし今回は“願い”を力の源として動くジンニーや戦士たちからだが）、ジャヴールがいよいよ最後の願いに近づいており、状況は絶体絶命の危機となっているとわかる。最後の願いは、“炎の血潮”ゾターニの魂を目覚めさせ、イフリースを新たなるロヴァググの墮とし子として変成させるだろう。それによって蒼白山は危険な火山となり、呪文がケルマレインに破滅をもたらすだろう。大変成を遂げたジャヴールが、イメリへの愛を成就させるためにカタベシュに何をやるかわかるものは誰もいない。PCたちは蒼白山の内奥深くに隠された炎の小部屋へと探索を進め、ゾターニの墓所でジャヴールと対峙せねばならない 恐るべき元素戦争の新たなる勃発を阻止するために！